

座談会

日本の税制の進路

～令和8年度税制改正を起点に～



自由民主党 前税制調査会会長 **宮沢洋一**

自由民主党 税制調査会幹事 **星 北斗**

日本経済団体連合会 経済基盤本部長 **魚住康博**

公認会計士・税理士 **緑川正博**

令和8年度税制改正は、国内投資の促進や成長分野への資源配分を通じて、日本経済の中長期的な競争力をいかに高めていくかという視点が、これまで以上に強く意識されたものとなった。一方で、「178万円」議論に象徴される所得課税の在り方、金融所得課税を巡る公平性の問題、さらには医療やエネルギー分野における税の位置づけなど、税制が国民全体の負担構造とどう向き合うのかという根源的な問いも浮かび上がっている。

こうした中、本座談会では、公認会計士・税理士の緑川正博氏をモデレーターに、自民党の宮沢洋一前税調会長、税制調査会のメンバーである星北斗氏、そして企業側の立場から経団連の魚住康博氏を迎え、令和8年度税制改正を起点に、日本の税制がどこへ向かおうとしているのかを多角的に議論していただいた。設備投資促進税制の実効性や税制による行動変容の限界、資産・所得格差への対応、金融所得課税の整理、税と社会保険料を合わせた負担の考え方、医療分野における消費税の扱い、そしてガソリン暫定税率を巡る財源論まで、話題は多岐に及んだ。

税制を通じてどのような社会像を描くべきなのか——。本座談会は、目先の改正項目にとどまらず、日本の税制の進路を考える上で示唆に富むものとなった。 ※本文中、敬称略

税制改正のプロセスの変化

税制をどのような時間軸で設計していくのかを意識

緑川：まず星先生、令和8年度税制改正全体を俯瞰して、税制調査会における議論の進め方や意思決定のプロセスがこれまでどう変わったのか、税調メンバーとしての実感をお聞かせく

ださい。

星：議論の進め方はこれまでと大きく変わりました。178万円問題や車体課税の議論をはじめ、他党との調整を前提にした議論が行われ、その